



ほう／絵 藤原ひろのぶ／文
買いものは投票なんだ
 EARTHおじさんが教えてくれたこと

257×182mm 40頁 定価1,320円(税込)
 発行所：(株) 三五館シンシャ 2018年発行
 〒101-0052 千代田区神田小川町2-8進盛ビル5F
 TEL 03-6674-8710
 ISBN：978-4-86680-900-7

[評者] (一社)産業環境管理協会 むかいなかの ゆうこ 向中野裕子

本書は46億歳のEARTHおじさんが、9歳の環境問題の疑問に「一緒に考えよう」と語りかける場面からスタートします。

「安いと思ってパンパン買って。きみらそんなにいるか？」など、親しみのある文体で「買いもの」という「もの」の選択が社会や豊かさやどうつながっているかを、EARTHおじさんがわかりやすく伝えてくれます。さらにその背景にある資源や環境問題等についても、そっと問いかけてきます。パステル調の色彩と優しいイラストの世界に子どもといっしょに引き込まれながら、日々の暮らし

の中で何をどう選ぶか、それはなぜかを考え、話し合うヒントもたくさんあります。

筆者はアフリカの貧困問題に向き合い、失敗や成功を重ねながら、「解決が困難に思える大きな問題も、もとをたどれば僕たちの“選択”の上でできている」と言います。

10歳と6歳の娘たちに読み聞かせてみると、「EARTHおじさんは、ごみ問題で体がものすごく汚れて、温暖化で最近熱っぽいって。なぜ?」「漢字がわからない。どう読むの?」と質問攻めです。大人側のゆとりと余裕も試される一冊です。



「ブーランジェリー・ドリアン」店主 田村陽至／著
捨てないパン屋

127×188mm 224頁 定価1,650円(税込)
 出版社：清流出版(株) 2018年発行
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-7-1
 TEL 03-3288-5405 <http://www.seiryupub.co.jp/books/2018/10/post-159.html>
 ISBN-10：4860294815 ISBN-13：978-4860294816

[評者] 環境カウンセラー ともだかよ 友田加世

パン屋さんというと、菓子パン、総菜パン、サンドイッチ、食パン、バゲットなど、数十種類のパンが並んでいるのを思い浮かべます。しかし、著者である広島のパン屋さんで売っているのは、薪金で焼いた大きなパンが5種類だけ。顧客に喜んでもらって、しっかりお金も儲かって、かといって長時間労働せず、ほどほどに動いて、時間にゆとりがあって長期休暇も取れる、そんなお店です。

以前は憂る間もないほど動いて、残ったパンをやむなく捨てていたパン屋さんが、いかにして、そんな夢のようなパン屋さんになり着いたのか、この本

には、その経緯と価値観が散りばめられています。

著者は、日本にとって、もっとも強烈に問題なのは、みんなが「これ大丈夫かな?」と思っていることを自らの力で変えられないこと、自分たちで自分たちの社会をコントロールできないことと、述べています。

働き方改革や、これからのSDGsの社会を生きる私たちに、多くの示唆を与えてくれる一書であると思います。ぜひ、ご一読ください。

ブーランジェリー・ドリアンホームページ
<https://derien.jp/>



井出留美／著

あるものでまかなう生活

127×188mm 200頁 定価1,540円(税込)
 発行所：(株) 日経BP / 日本経済新聞出版 2020年発行
 〒105-8308 東京都港区虎ノ門4丁目3番12号
<https://nikkeibook.nikkeibp.co.jp/item-detail/32360>
 ISBN：978-4-532-32360-8

[評者] 龍谷大学 先端理工学部 おくだてつじ 奥田哲士

今号の『循環とくらし』で記事を執筆されている井出氏の著作である。本誌p.68で紹介されている情報からも、「あたりまえ」だと思っていた多くのことが、気持ちよく「疑い」の洞に投げられる。「食」は日に3度あることなので、タイトルの「あるものでまかなう」が実践できたら社会が変わると思う、「大きく」しかも「簡単に」。

コラム(小記事)だけでなくTips(コツ)も沢山まとめられており、「実践」を意識された書だと感じた。食ロス削減運動の一つである「宴会時の最初

30分と終わり10分は自分の席で食事をしよう」という「3010運動」が〇〇市発であるなど新しい知識にも出会えるだけでなく、「あるものでまかなう」が「食」だけでなく「暮らし」と「生き方・働き方」にまで及んでおり、生き方を揺さぶられる。

書名の対義語の一つは「ないものねだり」だろうか。消費者と販売者のwin-winのためには、棚にすべての商品があることを消費者が喜んだり、販売者がお客様を神様と間違えず、必要にあった利用(「賄う」の意)を成熟すべきと教えてもらえる一冊である。



糸山智栄、石坂薫、原田佳子、増井祥子／著

誰でもできるフードバンクの作り方

未来にツケを残さない —フードバンクの新しい挑戦

130×188mm 256頁 定価1,870円(税込)
 出版社：(株) 高文研 2017年発行
 〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2-1-8
 TEL 03-3295-3415 <https://www.koubunken.co.jp/book/b313720.html>
 ISBN-10：4874986358 ISBN-13：978-4874986356

[評者] 東京農業大学 国際食料情報学部 の のむらまき 野々村真希

本書は、今回の『循環とくらし』にもご寄稿いただいている原田氏を含む著者4名が、「フードバンク岡山」と広島のパン屋「あいあいねっ」とをどのように立ち上げ、展開しているのかを紹介したものです。前半のフードバンク岡山の紹介では、著者の糸山氏のずば抜けた行動力と周囲巻き込み力、ネットワークに圧倒されます。そのため、タイトルにあるような「誰でもできるフードバンクの作り方」を期待して読みはじめると少し戸惑いますが、資金や人手がない中で身軽に活

動を続けていくための工夫もちりばめられており、そちらもぜひ注目ください。後半では、フードバンク活動が求められる背後にある貧困の問題、食品ロスの問題も解説されます。フードバンク活動をこれらの問題を解決する素晴らしい方法としてただ称賛するのではなく、活動が抱える矛盾、食品ロスや貧困が生まれる根本にある社会構造の問題も指摘するところが特徴的です。フードバンクの活動内容だけでなく、意義とあり方についてもしっかり教えてくれる書です。